令和元年度日南市立飫肥中学校　学校の自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価　　4 期待以上　　3 ほぼ期待どおり　　2 やや期待を下回る　　1 改善を要する

評価項目	評価指標	方策・手立て （　）は、日南市主催事業との関連	学校の自己評価コメント	自己評定 項目	自己評定 総合	関係者評価	○　結果の考察・分析、改善策 ※　外部評価のコメント
（1） 学力の向上 〈知〉目指す生徒像「自ら学ぶ生徒」 日南市学校教育課重点施策①⑧	1　授業の工夫・改善	・授業改善の４＋４のチェックポイントを意識し、授業改善に努める。 ・ご意見・支援訪問と主題研究を絡めながら、グループ学習に研究授業や授業参観を行う。 ・全国学力調査、みやざき学力調査の結果を分析し、生徒の実態を把握し、実態に応じた指導を行う。	○全職員が年３回指導案を作成し、指導主事等によるフィードバックを受けることで、１人１人の改善点を明確に示し、授業力向上につなげることができた。 ○諸テストを正確に分析し、生徒の実態に応じた指導を行うことができた。 ●速やかに文章を読む習慣を普段の授業の中でお互いの授業を自由に参観できる雰囲気づくりが必要である。	3	3	3	○　若干の改善は見られるが、授業内容の理解については家庭、英語は低下し、生徒の実態に応じた授業の工夫・改善は、授業の他教科は授業の実施方法を分析・把握しているものと思われる。 ○　将来の職業や進学したい高校について考えさせる取り組みは、就職を目指す生徒に浸透しているが、進学を目指す生徒に教えて成いのじを期待する。 ※　学習委員会の活動や学年・学級の指導文章を文章に読む習慣が身に付いていない。 ※　基本的な学習習慣が身に付いていない。 ※　本校の課題である読書活動の充実を図るため、自主的に読書を行う。 ※　地域の伝統文化を見つめ直し、発信する。 ※　落ち着いた学習環境を整える。
	2　地域の特色を生かした教育活動の推進	・地域の人材・素材を活用した授業を行い、地域の特色を知る。（学校支援本部事業）、（振徳教育の日） ・体育大会で小米桜・泰平踊りを披露し、地域の伝統文化を見つめ直し、発信する。 ・職場体験学習で地域の特色を体験すると共にキャリア教育の推進を図る。	○総合的な学習の時間を利用して、体験学習や調べ学習を実施し、地域の魅力を再発見する。 ○体育大会で小米桜・泰平踊りを実施するとともに、城下祭りのパレードで披露する台風の影響で、職場体験学習が２日間の計画が１日のみとなった。体験活動の充実のためにも期間・内容について検討が必要である。	3			
	3　基本的な学習習慣の確立	・授業約束５を活用し、授業中の態度を徹底させる。 ・スケジュールノートを利用して、見通しを持ち、授業の準備を確実にさせる。 ・読書活動の充実を図る。（読書活動推進事業）	○授業態度や授業前の１分前着席・黙想が全学年できるようになった。 ○全職員で共通した指導ができた。 ●読書を継続して行うようにする指導ができなかった。	3			
	4　家庭学習の充実	・課題一覧表を作成し、課題を生徒に分かりやすいように提示する。 ・家庭学習の重要性について学級活動で指導を行う。 ・見届けを行い、最後まで提出させて確認する。	○課題の提出を最後まで見届けるなど個別指導を行うことによって、提出率を向上させることができた。 ○学級活動の時間に家庭学習の重要性や取り組み方等の指導を行うことができた。	3			
（2） 積極的な生徒指導の推進 〈徳〉目指す生徒像「豊かな心を生きる生徒」 日南市学校教育課重点施策②③④	1　規範意識の高揚と挨拶等の礼儀指導の充実	・集会活動時のかけ礼法指導を充実・徹底させる。 ・生徒にしっかりとした目的意識をもたせ、委員会活動や清掃指導の充実を図る。	○総合的な学習の時間に礼法指導を行ったり、集会時に繰り返し指導を行うことで、礼儀が身につきつつある。 ●挨拶を自らすすんで行うように指導を継続していくことが必要である。	3	3	3	○　継続して全校で指導を行うことにより、挨拶の重要性を生徒に共通理解させる。 ○　教職員が共通理解を図り、生徒会役員の挨拶を模範とするよう指導する。 ※　挨拶の重要性を生徒に共通理解させる。
	2　学年・学級づくり	・生活アンケートを毎月実施し、いじめの未然防止と解決の手立てをとる。 ・年３回の教育相談期間を設け、よりよい人間関係づくりに努める。 ・道徳、学級活動の時間の充実を図る。	○学年職員が全体で道徳を行ったり、全校一斉の道徳の授業を行ったりすることで、人間関係を醸成することができた。 ○定期的に教育相談や随時の教育相談により、生徒の悩みにいち早く気づき、支援することができた。 ●道徳、学級活動の時間の更なる充実が必要である。	3			○　毎月実施した生活アンケートにより、生徒の悩みを早期に発見し、教育相談に活かすことができた。 ○　道徳の授業を通して、生徒の心を豊かにすることができた。 ※　学級活動の時間の充実を図る。
	3　生徒会活動の活性化	・自主的な生徒会活動となるように各委員会組織の指導を行う。 ・生徒会を主体とした活動となるように指導する。	○わかすぎ塾など、生徒会役員自らが企画し、取り組んだ。 ●生徒会活動に対する取組に差があり、全校生徒一人一人が生徒会の一員であるという意識を高める必要がある。	4			○　わかすぎ塾など、生徒会役員が積極的に活動できた。 ○　全校生徒一人一人が生徒会の一員であるという意識を高める。 ※　生徒会活動に対する取組に差がある。
〈体〉目指す生徒像「たくましい生徒」 日南市学校教育課重点施策⑤⑦	4　部活動の充実	・休養日と練習時間の確保を両立させる。 ・挨拶など指導場面の徹底を図る。・	○地区大会で優勝する部活動が出るなど、意欲的に取り組むことができた。 ●出場大会を更に精選すると共に、生徒への細やかな指導を継続する必要がある。	3			○　地区大会で優勝する部活動が出るなど、意欲的に取り組むことができた。 ※　出場大会を更に精選すると共に、生徒への細やかな指導を継続する必要がある。
	5　安全教育・健康教育・食育の充実	・避難訓練の実施や経路の確認を定期的に実施する。（防災教育担当者会） ・自力登校を行い、食べるものに関心をもち将来への健康な体をつくるよう指導する。・	○毎週、昼の放送により食育ワンポイントなどを流して関心をもたせることができた。 ○県一斉のみやざきシェイクアウトに参加し、ふだんから災害への備えることの大切さについて考えることができた。	3			○　毎週、昼の放送により食育ワンポイントなどを流して関心をもたせることができた。 ※　生徒に自主的な生徒会活動や様々な行事を行う。 ※　職場体験学習や立志式は、自分の特性を知り自己実現を図るよい機会となっている。
（3） キャリア教育の充実 日南市学校教育課重点施策①	1　個性を生かす進路指導の充実	・進路の情報を整理し、ニーズに応じて適切な情報を提供する。（グッジョブフェスタ in にちなん）	○各学年で計画的に情報提供を行うことができた。 ○進路指導だよりを発行し、生徒・保護者に情報を提供することができた。 ●３年間を見通したキャリア教育の計画を立て充実を図らなければならない。	3	3	3	○　職場体験学習や立志式を通して、高等学校のオープンスクールなどに参加するなどキャリア教育の充実を図ることができた。 ○　進路だより等を発行し、生徒・保護者に情報を提供することができた。 ※　学年間を見通したキャリア教育の計画を立て充実を図らなければならない。
	2　主体的に進路選択できる能力の育成	・職場体験学習等、体験活動の機会を増やし、自ら学ぶ経験を多くさせる。	○全学年に対し、オープンスクール等への参加を積極的に行うことができた。 ○総合的な学習の時間を使って年間を通して計画的に行っている。	3			○　職場体験学習等、体験活動の機会を増やし、自ら学ぶ経験を多くさせる。 ※　オープンスクール等への参加を積極的に行うことができた。 ※　総合的な学習の時間を使って年間を通して計画的に行っている。
	3　将来にわたって自己の実現を図ることができる能力や態度の育成	・自己の長所や短所を知り、適切に振り返ることで将来の自己実現を図る。 ・予測することを経験させることで将来設計の能力を伸ばす。	○立志式、職場体験学習等が、自分の適性を知る良い機会となっている。 ○教育相談週間を毎学期に設定し、相談後に進路指導や生徒指導に関する生徒の共通理解を図り、その後の指導に役立てることができた。 ○進路コーナーを設置し、高校の情報等を提供している。	3			○　立志式、職場体験学習等が、自分の適性を知る良い機会となっている。 ○　教育相談週間を毎学期に設定し、相談後に進路指導や生徒指導に関する生徒の共通理解を図り、その後の指導に役立てることができた。 ※　進路コーナーの充実を図る必要がある。
（4） 特別支援教育の充実 （特別支援教育推進事業） 日南市学校教育課重点施策⑥	1　知的障がいや情緒障がいの特性や行動を理解した個別の指導計画作成	・職員研修等で正しい知識を理解し、個別の指導計画を作成する。 ・特別支援コーディネーターを中心としたサポートを全職員で行う。	○特別支援コーディネーターを中心に知的障がいや情緒障がいの特性や行動について理解することができた。 ●個別対応の方法などをもう少し研修の機会があると良い。 ●特別支援学級在籍生徒の個別指導計画を早期に完成させる必要がある。	3	3	3	○　特別支援コーディネーターを中心に知的障がいや情緒障がいの特性や行動について理解することができた。 ○　特別支援教育部会で出された事項を運営委員会や職員会で共通理解を図り、個別の支援や立支援に関する教育の充実を図る。 ※　特別支援学級在籍生徒の個別指導計画を早期に完成させる必要がある。
	2　個々の将来を見通した社会的自立への支援	・一人一人の個性を理解し、全職員で共通理解を図る場を設定して情報の共有化を図る。 ・個々の生徒に応じた進路指導を行う。	○毎週、特別支援教育部会を開き、生徒に関する情報共有や共通理解を図っている。 ○教育相談等を通じて将来を見通した進路選択ができた。	3			○　毎週、特別支援教育部会を開き、生徒に関する情報共有や共通理解を図っている。 ※　教育相談等を通じて将来を見通した進路選択ができた。
	3　校内協力体制等の確立	・特別支援コーディネーターを中心として全職員体制のサポートチームを編成して取り組む。	○通常学級で在籍の支援を必要とする生徒に対して、職員が協力してサポートすることができた。 ●事前の打ち合わせを行い、学習支援等教員の更なる有効な活用が必要である。	3			○　通常学級で在籍の支援を必要とする生徒に対して、職員が協力してサポートすることができた。 ※　事前の打ち合わせを行い、学習支援等教員の更なる有効な活用が必要である。
	4　特別支援教育の視点に立った教育の充実	・一人一人の個性に応じた支援を行う。	○週に一度校内支援委員会を開催し、職員間で特別支援に関する情報を共有し、一人一人に応じた支援を行うことができた。	3			○　週に一度校内支援委員会を開催し、職員間で特別支援に関する情報を共有し、一人一人に応じた支援を行うことができた。 ※　特別支援教育の視点に立った教育の充実を図る。
	5　専門教育機関との連携	・教育委員会、児童相談所、こども課、通級教室等との連携を密にする。	○関係機関と連絡を密にとり、必要に応じてケース会議を行うなど具体的に指導を行うことができた。	3			○　関係機関と連絡を密にとり、必要に応じてケース会議を行うなど具体的に指導を行うことができた。 ※　連携を密にする。

次年度の方向性についての校長所見

県及び日南市の教育目標を具現化するために、本校の目標「全職員が一丸となり、生徒ひとりひとりの可能性を伸ばし、知徳体もバランスのとれた生徒を育成する」を掲げ４つの努力目標・努力事項に基づき取り組んできた。生徒会活動の活性化や授業改善が図られるなど成果が見られるが、キャリア教育や読書活動の充実など課題も明らかになった。指摘された課題に対して、分析を行い具体的な手立てを立てて職員の研修を深め、生徒の指導に当たっていきたい。